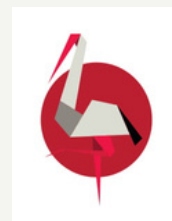


# 社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年8月23日 / Vol. 015



## 8月15日(月)～8月21日(日)の支援活動

支援所・学生寮への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援



## ご支援総額

2022年8月15日までの寄付総額 98,341,536 円

寄付金使用総額 1317253.48 zł (3,820万円)

8/15(月)～8/21(日)の期間中の寄附金使用額

37618.41 zł(約109万円)

ウクライナから避難してきている子ども100人以上を預かる託児所へ、毎月レストランクーポンを配布している。クラクフで働く母親たちにとってこの託児所とレストランクーポンの存在は、大きな支えとなっている。



# 活動内容

## 支援所・学生寮への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所とオポルスカ支援所へ、支援物資を提供。

カリタス支援所は運営時間短縮のため週2回の買い出しに変更し、オポルスカ支援所へは週1度のフルーツ配達・週2度の支援物資の買い出しを実施。

ウクライナ人避難民46名が滞在する学生寮へは週1度のフルーツ配達と毎日昼食の配達を実施しており、子どもたちの好きなピザや、ウクライナ料理が日替わりで提供されている。



## レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約1100食を提供。現在は2店舗分のレストランクーポンを配布している(残りは配達と固定利用客のため、リストを作成し管理)。各レストランともウクライナ人オーナーが経営しており、ウクライナ料理を口にした人々は「ここは小さな故郷のように感じる。」と喜んでいる。



以下はレストランプロジェクトを利用して  
いる方から支援者の皆様へのメッセージ

日本の皆様へ。  
ウクライナの人々と私たち家族をご支援頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。私たち家族のうち2人は障害を抱えています。(幼少期から病気を患っている9歳の息子と、78歳の母親です。)皆様のご支援・ご協力は私たちにとってとても価値のある、かけがえのないものです。敬意を込めて。

ウラノヴィ家より



Dear Japanese people,  
we are very thankful for  
your help to Ukrainian  
people and for our big  
family,  
where we have 2 disabled  
people - my small son  
(9 years old) who is sick  
since childhood  
and my mother (78 years).

We value your help and  
care!

With big respect,  
Ulanovy family



## 活動内容

### 食材支援（毎週金曜日）

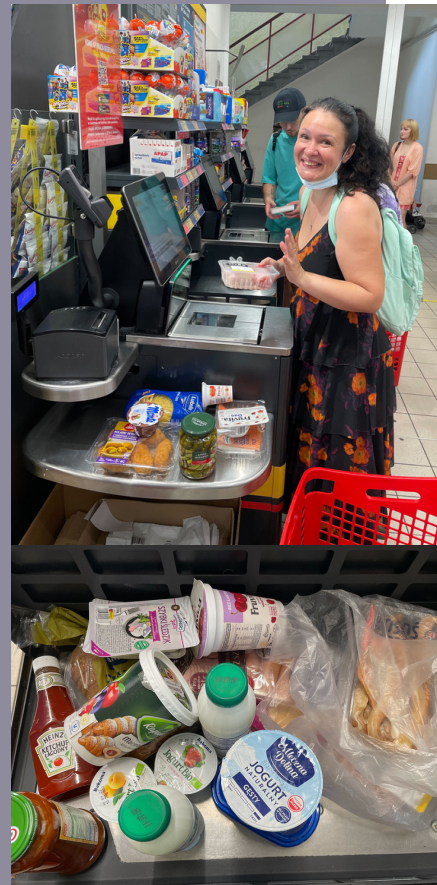
26家族に1週間分の昼食用食材を提供。

一人あたり50złの予算を設け、合計で 3290.93 zł（約95,500円）分の食材を購入。

パン、パスタ、肉、魚、などの主要食品に加え、長引く暑さにアイスクリームを購入する家族の姿もあった。

また、ポーランドでは今がぶどうの旬なため、ぶどうを購入する家族の姿が目立った。

支援所では保存が簡単で配布しやすいバナナ・りんご・みかん等のフルーツが中心で配られていることもあり、食材支援の参加者の多くが、季節の果物を好んで購入している。



## 現地の動向

ポーランドに新たに到着する避難民の数は、侵攻開始後の数か月以来、大幅に減少している。

ポーランド経済研究所によると、政府や社会の対応は、ポーランドへの適応と統合に重点を置くようになったと報告している。

6月初めまでに約18万5千人のウクライナ人がポーランドで仕事を見つけたが、その約半数は低技能職であり、仕事を見つけたウクライナ人でさえ生活費を稼ぐのに苦労しており、経済的支援、心理的支援、医療など、戦争から逃れた人々のニーズはポーランドの福祉制度が対応できる範囲を超えていることが懸念されている。

